エゾシカトロフィーを新築の家へ贈る風習は存在したのか？

持田　誠（浦幌町立博物館）

はじめに

2023 年 8 月 20 日、大阪府に所在する岸和田自然資料館の風間美穂学芸員から、以下のような問い合わせがあった。

「先日、当館にエゾジカのトロフィー（頭部のみの剥製）を寄贈したいというお申し出がありました。その方によると、お父様が帯広で家をたてたときに知り合いからもらったそうです。北海道では家を建てた人にエゾシカの剥製を送る風習があるとのことだそうで、そのときのものではないかとのこと。（中略）エゾジカの剥製を送る風習はほんとうにあるのでしょうか。あるとすれば北海道全域なのか特定の場所だけなのか」。

十勝郡浦幌町内の狩猟者数名に聞いてみたが、はっきりとした回答は得られなかった。そこで、北海道自然史研究会と北海道博物館協会学芸職員部会のメーリングリストを用いて情報提供を呼び掛けたところ、9 名の方から情報を得た。引き続き聞き取りなどを実施しているが、現在までに集まった情報を紹介する。【】は情報提供者本人もしくは情報提供者が聞き取りした方の、対象となる生活圏と現在の年代。

1. 風習はあったとするもの

①それが苫小牧か道内かは忘れてしまったが、たしかに新築の家に、エゾシカの頭部の剥製を贈る習慣があったと記憶しているとのこと。ほかにもさんごの置物、キジの剥製も、新築の家への贈り物としてあったらしい。

【道内・60 代】

②「知り合いの方が、苫小牧の植苗で狩猟した猛禽類の剥製を“お祝い”に贈られた」という話を聞いたことがある。何のお祝いだったかは不明。

【胆振管内・故人・ご存命だったら 100 歳くらい】

③「狩猟をする知り合いから贈られたもの」などの情報しかなく、〔博物館資料として〕受け入れをお断りした剥製が多かった。〔←逆にいうとエゾシカトロフィーに限らず剥製を贈る風習があったことを推察させる〕

【苫小牧市・40 代】

2. 風習はなかったとするもの

④父（道南の茂辺地出身、70 代半ば）、母（道東の上渚滑・紋別出身、60 代後半）に鹿のトロフィーを贈る話を聞いたところ、２人とも「そんな話聞いたこともないし、見たこともない。上渚滑では大人が当たり前に猟銃を使っていて、ヒグマの肉も食べたことがあるが、剥製を飾る・贈るという風習は見たことがない」。

【道南・道東・60〜70 代】

⑤家の新築の時に何らかの剥製を送ることはあったようだが、それがシカ頭とは限らないし、習慣、風習と言えるほどの頻繁さも文化臭もないと断言していいと思う。プレゼ

ントの選択肢としてはあった、という程度。もしかしたらかつての剥製業者の一種の宣伝、産業振興のための謳い文句であった可能性があるかもしれない。

【道南・帯広市・50 代】

⑥北海道で〔剥製を贈る風習は〕聞いたことがない。ハンターだけではないか？

【旭川市・50 代】

⑦「新築祝い」は聞いたことがない。我々の代の前に，お金落ちの象徴として「もつ」ことが流行ったと記憶している。

【旭川市・70 代】

⑧実家の玄関壁に、エゾシカトロフィーが備わっている。父が「新築したら、玄関にはシカの頭部を飾るもんだ」といい、知り合いの知り合いの猟師さんづてで購入し、新築時に設置したもの。父が、それを北海道の慣習だと知っていたのか、他所で見て、我家もと思ったのかは不明。トロフィーは意外と浸透している。

【江別市・50 代】

⑨「親が狩猟をしていて剥製にして、床の間に飾っていた」

【苫小牧市・年齢不明】

⑩建設関係の会社の事務所らしきところに「エゾシカ　トロフィー　●●●●円」という看板（雑に黒マジックで手書き）が出ているので、需要があるのだろう。周囲の人は「豪邸とかにある（調度品の）イメージだった。新築で贈るという話は初めて聞いた」という。

【道内・30 代と 40 代】

⑪名寄の祖父はエゾシカを獲っては剥製にした。オスジカのトロフィーなど哺乳類の剥製を部屋にズラーッと並べていた。小さいころ、その部屋の布団で寝るのが怖かった。エゾシカは遠軽の業者に缶詰にしてもらい、みんなで分けた。剥製は士別の業者が作っていた。

【名寄市・談話者の年齢不明だが平成初期の話】

考察

現在までに、確実に「エゾシカのトロフィーを贈る風習があった」とする事例は事例①のみだったが、エゾシカのとトロフィーに限らずなんらかの剥製を贈る風習があったことをうかがわせる内容を含めると 2 件であった。

エゾシカのトロフィーを贈る風習には否定的な事例は 8 件だったが、そのうち 5 件は、贈答とは別に、家庭に「剥製を飾る」という風習自体は広く見られたことをうかがわせる内容だった。多くは狩猟者自身が飾ったものだが、事例⑧のように購入してまで飾るケースも見られたことを考えると、一部ではかなり浸透していた可能性がある。

これらから想像すると、エゾシカのトロフィーを家に飾るケースが、狩猟者家庭を中心に昭和から平成初期にかけて北海道の一部には見られた。それらを見て、狩猟者以外の家庭でもエゾシカ剥製を自宅に飾る場合があり、そのための販売も行われていた。ただし、新築の家に剥製を贈るという行為が北海道の一般家庭の風習というほど広まっていた可能性は低く、一部地域や一部業種の間で見られた風習の可能性がある。引き続き、関連業者を含めた聞き取りを実施して、実態を明らかにしていきたい。